

対人業務を考える ーがん患者フォローアップ編ー

フローチャート式「副作用の対応」を用いて がん患者へのフォローアップを実践 (1/2)



薬樹薬局船橋金杉（千葉県船橋市）

ストアマネジャー
管理薬剤師

大西 美恵子氏

がん診療連携拠点病院の船橋市立医療センター（千葉県船橋市）に隣接する薬樹薬局船橋金杉では、ストアマネジャー・管理薬剤師の大西美恵子氏を中心に、フローチャート式「副作用の対応」を用いてがん患者さんへのフォローアップに取り組んでいます。同医療センターとの情報共有など連携関係の下に、患者さんとコミュニケーションをとりながら、有害事象の予防、その影響の最小化に努めています。今回は、がん患者さんのフォローアップを中心に、お話をうかがいました。

今号の ポイント

1. フローチャート式の一覧「副作用の対応」を活用して患者の意識高める
2. 患者と信頼関係を築き、趣味や好きな食べ物など「やりたいこと」を情報共有

がん専門医療機関での研修を経て「体調管理ツール」を開発し活用

船橋市立医療センター（以下、医療センター）はがん診療連携拠点病院に指定され、多くの患者さんが外来がん化学療法を受けておられます。近隣には当薬局を含め4薬局ありますが、当薬局の患者さんの多くが医療センターの患者さんで、外来がん患者さんは毎日10名ほど来局します。がん患者さんの場合、がんの種類とレジメン、何クール目か支持療法は何かなど、最適な薬物療法を継続していただくためには、多くの情報が必要だと考えています。しかし、以前は処方箋だけの情報でしたので、個々の患者さんがどのような治療を受けているのかはよく分かりませんでした。

2015年頃から、近隣4薬局と薬業連携の一環として医

療センターとの勉強会は行っていたのですが、やはり院内での治療の流れや患者情報を知る機会は少なく、外来がん患者さんへの適切なフォローという面で、さらに連携できることはないか模索していました。ちょうどその頃、弊社では国立がんセンター東病院での実務研修の社内募集があり、がん治療の実状を理解する絶好の機会だと思い参加を決めました。

その時の研修では、東病院で作成された『副作用で困ったら』という資材が患者さんの間で活用されていました。そこで研修終了後に、その資材を参考に本社メンバーとも協議して、抗がん剤による副作用の状態、レベルに応じた対応の仕方をフローチャート式の一覧「副作用の対

従来の化学療法、つまり細胞障害性の抗がん剤は、白血球が低くなるなど副作用の好発時期が分かりますので、患者さんにも理解がしやすかったと思います。しかし、ICIの場合は、投薬後少し経過した時期にも副作用が出ることがあります。そのため長い期間に渡って、私たち薬局薬剤師がフォローアップしていく必要があります。患者さんには「体調の変化があった時には必ず教えてく

[illegible]